

# 令和4年度 第1回御殿場市総合教育会議

---

## 日時

令和4年8月29日（月）午後1時30分 から

## 会場

御殿場市役所 東館201～203会議室

## 出席者

御殿場市長 勝又 正美

教育長 勝亦 重夫

教育委員 勝又 英和

教育委員 渡邊 直子

教育委員 杉山 ゆかり

教育委員 長田 光男

## 陪席者

教育部長

教育総務課長

学校給食課長

教育監兼学校教育課長

社会教育課長

## 次第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

・ICT機器を活用した学習活動の充実と情報活用能力の育成について

5 閉会

# 1 開会

---

教育総務課長（進行）

---

本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。  
定刻になりましたので、ただ今から令和4年度第1回総合教育会議を開催します。  
全体の進行は教育総務課の山崎が務めさせていただきます。よろしく申し上げます。  
それでは、開会にあたりまして、初めに御殿場市長よりご挨拶をお願いします。

## 2 市長挨拶

---

市長

本日は、今年度第1回目の総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

また、関係者の方、傍聴されている方ご出席頂き感謝申し上げます。教育委員の皆さんにおかれましては、御殿場市の教育に対し熱意を持ち、様々な場でご支援ご協力いただき、この場をお借りして感謝申し上げます。

午前中この会場で記者会見がありました。複数の件目があり、その中で富士山おもちゃ館（仮称）について9件ありましたが、そこで富士山おもちゃ館（仮称）について発表しました。テレビ局も3局、新聞社についても大勢来ていただきました。また、木を生かした木育宣言をしています。その1つの試みとして富士山おもちゃ館を建設するという報道に公表しました。

本日夕方報道されますのでご覧頂ければと思います。子ども達のこれからの教育に影響を与えるものであると思います。

夏休みが終わりまして、今日から学校が始まります。にぎやかな子どもたちの声が聞こえてくると思います。ウクライナの避難民についても、小中学生2人が朝元気に登校したという話を聞き安心しております。

新型コロナウイルスの陽性者についても増え続けておりますが、学校が始まり人の流れも多くなると思います。市としても注意喚起をしっかりと行っていきたいと思っております。

コロナ禍ではありますが、歩行者天国をはじめ、お祭りやイベントなどを行ってきました。リスクがあることを承知で行ってききましたが、陽性者の数の変動にはつながらず良かったと思います。三年ぶりに実施した歩行者天国では多くの子どもたちが来ており、明るい顔を久々に見れてよかったです。

子ども達は非常に感性豊かであり、子ども達が成長していく過程には、やはり人とのかかわりや経験、行事に参加していただくことは大事だと実感しております。

本日は、ICTに関する協議事項が出されています。

皆さんから、気軽に忌憚のないご意見を聞かせていただければと思います。是非有意義な時間にしたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思います。

本日はどうもありがとうございます。

教育総務課長

---

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

### 3 教育長挨拶

---

教育長

皆さんこんにちは。総合教育会議にご参集いただき誠にありがとうございます。新しい教育委員会制度になり、早くも7年が経とうとしております。その際に開催することとなりました総合教育会議ですが、教育委員会としては教育行政を充実、発展させるための整理、あるいは学芸及び文化の振興を図る上での施策を市長と協議をしていく大変重みのある会となっております。

今年度は、新型コロナウイルスのオミクロン株の影響で厳しい感染状況の中で始まりました。教育委員会としては、大人や子どもたちの学びを止めないという基本的な考えのもと教育行政を進めております。できる限り予定をしている行事や催し物については、感染対策をしっかりとりながら行っている状況です。

長引く制限のある生活の中で様々な影響を与えていますが、心身を育む土壌に関する影響について心配しております。教育に携わる者としましては、子ども達が元気で明るくいてくれることが何より嬉しいことです。保護者はもちろんのこと、地域社会を持っても子どもの存在は明るさの源であり、活力の源になっています。未来社会担い手の育成という大きな役割を学校が果たしていけますように、教育委員会としても努力してまいります。

本日の会議の議題は、ICT 機器を活用した学習活動の充実と情報活用能力の育成についてです。現行の学習指導要領では、言語能力や問題発見、解決能力と並び情報活用能力が学習の基盤となる資質能力であるといわれております。『情報活用能力』と、『必要な情報を WEB 上で探し出す力』や、『多くの情報を集めて整理分析をして、評価する力』、『プレゼンテーションソフト等を使い自分の考えをまとめる力』が言われていますが、これらは現代社会では日常的なものとなっております。

仕事を進めていく中でも必要不可欠なものになりつつあります。情報活用能力の有無で仕事が効率的にできるかどうかの差につながりまして、仕事を評価される上では、大きな要素となっております。

従いまして、未来社会を生きていく子ども達にとって、情報活用能力を身に付けていくことは大きな意味を持つと思っております。

本市につきましては、以前から ICT 教育の推進については意識をしており、電子黒板を始めとする ICT 機器の導入や活用などに取り組んでまいりました。

数年前には、中学校ではパソコン教室で固定された空間での学びをしておりましたが、タブレット端末を導入し様々な形で学べるよう取り組んでまいりました。しかし、財源等の問題もあり導入されたタブレットの台数は全校生徒に対しかなり少ない数でした。

2019 年から GIGA スクール構想で5年間かけて順次タブレットの導入する予定で

したが新型コロナウイルスの影響で、一気に前倒しされ昨年度から一人一台端末が導入されています。どのように学びの充実をさせるかが大きな課題となっております。子ども達が未来の社会を力強く歩いていけるようにしていくためには、ICT教育の充実は重要なことだと思います。

本日はそれぞれのお立場から考えを発信していただきまして、子ども達のために活発な討論ができれば幸いです。よろしくお願いいたします。

## 4 協議事項

### ・ ICT 機器を活用した学習活動の充実と情報活用能力の育成について

---

教育総務課長

---

教育長ありがとうございました。

早速ですが、協議事項に移りたいと思います。

これからの進行につきましては、勝又市長よりよろしくお願いいたします。

市長

---

ここからは私の方で進行させていただきます。改めて、教育委員の皆さん本当にありがとうございます。教育委員会をはじめ様々な行事に出席いただき、提言等もいただき心より感謝申し上げます。

それでは、協議事項の「ICT 機器を活用した学習活動の充実と情報活用能力の育成について」を事務局より説明願います。

教育総務課長

---

本日の協議件目につきまして、簡単に説明させていただきます。

学校の ICT 環境については、令和 2 年度に一人一台タブレット端末を整備し、令和 3 年度より全児童生徒がタブレットを活用した授業等を推進しているところでございます。

GIGA スクール構想の前倒しにより、ハード面での環境は概ね整いましたが、次の段階としまして、導入したハードをより効果的に活用していくための方策を検討していく必要がございます。

つきましては、資料 1 で当市の機器整備の現状や、活用の現状をお示ししておりますので、それら現在の ICT 環境の状況を踏まえながら、今後の御殿場市のタブレット等の活用に関する意見交換をお願いします。

資料 2 は、ICT 活用に関する国の活用方針です。

なお、委員の皆様におかれましては、資料に留まることなく、教育の ICT に関しまして、広く自由なご意見を頂ければと思います。以上、説明といたします。

市長

---

それでは、教育委員の皆様から順番にご意見をいただき、意見交換していきたいと思っております。

まずは、勝又委員からお願いいたします。

勝又委員

---

改めましてこんにちは。市長には、日頃より教育行政にご理解ご協力いただきありがとうございます。

ICTについてということで、何年か前に教育委員会の研修で東京の方に行き、タブレットと電子黒板を使った授業のデモンストレーションを受けました。その時に初めて教育でのタブレットと電子黒板の使用を体験し、御殿場市に電子黒板が全部入っている状態ありませんでしたが、これからはICTの時代だと思いました。

教育はこれから変わり、重たいランドセルを背負って通学していたのが、タブレットの中に電子教科書を入れていくような世界がすぐそこまで来てるのではないかと思います。

その後、関連業者から資料を定期的に送ってもらっていて、自分なりに勉強させていただいております。全国でのタブレットを実際にどういう風に使っているのか、問題点等も出ています。これから御殿場市が本格的に導入するにあたり参考になると思い購読しています。

使い方に関しては、最終的には先生や学校が子ども達のために使いやすい方法で使ってもらえればよいのかなと思います。

自分としては、タブレットは文房具にすぎないと思っています。子ども達は大人が考えるより早くパソコンやタブレットに順応しまして、大人の考えつかないような使い方をしてしまうことがあると思います。

実際に、子ども達がタブレットを習得するスピードは速く、大人が想定していなかった使い方により、様々な市町で問題が出ています。

御殿場市は、これから本格的にタブレットを使い始める時期ですので、同じような失敗を繰り返さないで行っていただきたいと思います。国は、フィルタリングの制限は誠に必要な場合のみ限定的に行うと示されていますが、子ども達は思いつかない使い方をしてしまうのが現状だと思います。

自宅にあるパソコンを使って、インターネットでメール、SNSをするのは自由に行っていると思います。その時の環境を整え、セキュリティを設定するのは保護者の責任、義務だと思います。

今学校で貸与しているタブレットは、一つの文房具として教育のために使うということであれば、文房具としてしか使えないという教育をしてもいいのかなと思います。他に使いたいという話が出るのであれば、ご自宅のパソコンやタブレットで行えばいいと思います。学校から貸与したタブレットが原因でいじめにつながることは避けたいという考えです。

タブレットでSNSをやっている市では、誹謗中傷できないようなシステム導入につ

いて進めているそうです。極端な話をすると誹謗中傷するような単語が表示できない制限をかけたたりできると思います。やはり、貸す側からすると管理は楽ですが、ID やパスワードが共通になると、なりすましができてしまい、いじめにつながる危険性があります。管理が大変ですが、一人一人に ID やパスワードを振り分け危険を排除することも大事だと思います。細かい不安要素を一つ一つ潰していき、市が貸与したタブレットで不具合が起きないように対策をとるのも方法の一つだと思います。

ただ、制限をかけるだけがすべてではなく、いじめ等を恐れて制限をかけるよりは、ネットの使い方についてのモラルを、子ども達に教育していくことも大事だと思います。ネットの危険性を徹底して教育していけば、制限をかけずに子ども達に使ってもらえることも考えられます。どこまで子どもたちに理解させ、徹底できるのかは時間をかけて教えていく問題だと思います。そのため、制限をかけ補助教材として文房具扱いで割り切るのがよいと考えます。

市長

---

ありがとうございました。それでは、長田委員お願いいたします。

長田委員

---

勝又市長さんとは2回目の総合教育会議になります。どうぞよろしくお願ひします。課題の ICT 機器を活用した学習活動の充実と情報活用能力の育成についてということですが、自分の経験とリンクさせて話したいと思います。

今から30年前に上司に「これからはワープロじゃない。コンピュータの時代だよ。参考書を使って目の前のパソコン全部使える様になりなさい。」という業務命令が出ました。間もなくすると、OSがWindowsに変わり、マウスが出現しました。四苦八苦したことを覚えています。

3年くらい経った時、情報化推進のリーダーに任命され、端末機を使い指導しました。また、営業推進について、一目で分かるものを作れと言われていました。マクロを使用して作るのですが、間違いがあると処理されないため、直して上手くいった時の達成感は忘れられない思い出としてあります。

40歳の時には、ホームページを開設の業務命令が出されました。10時間程度のソフトを扱う研修だけで、他は独学で覚えました。ソフトでは限界があったので、他の方法でホームページを完成させましたが、忘れられない思い出として残っています。ここまでは、仕事上の情報リテラシーの向上に要した8年程の期間の話です。

ワープロを使っていたので、かな入力からローマ字入力に変えるのも苦労しました。

現在ローマ字入力の授業が小学校4年生から3年生に変更になったと聞いています。コ

ンピュータを使う前提と聞いています。小学校3年生でローマ字を学び、小学校卒業時に10分間で200文字入力できる、中学校卒業時には10分間で300文字正確に入力編集できる能力を身につけるとされています。

文科省が小中学校9年間で身につけさせたい中学校卒業時情報活動能力が出ていますが、私が8年間で得たリテラシーより遥かに高いレベルです。例を挙げると、『コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを理解できる』、『情報推進ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを理解できる』、『デジタル化の方法について知りその特性や利点を理解できる』、『コンピュータを利用した計測』、『制御の基本的な仕組みを理解できる』、『文字の大きさや色違い画像の配置などレイアウトを工夫して分かりやすいWebページ、プレゼンテーション資料、アニメーションなどを作成し、自分の考えを発信できる』等身につけさせたいものとしては、ハイレベルに感じます。先生の大変さはお察しします。

今、情報教育は中学生になってからで、小学生では専門科目としての情報教育はないと聞いています。中学校で同じスタートラインで情報教育を始めるには、小学校の6年間を通して、どの子にも情報活動能力の基礎基本を身につけさせ、小学校卒業時には一定レベルの情報活動能力が備わっている必要があると書かれています。これはやはり多忙を極める先生方にはますます重責になっているのだらうと思います。

小学校では、児童がプログラミング教育で、コンピュータに意図した処理を行わせて、必要な論理的思考能力を身につけさせることをやっていますが、過去に経験したことであり共通していることだと感じます。コンピュータを使い自分で作ることの喜びや出来上がった満足感を学んでいただきたいと思います。思い通りになった時の達成感や喜びは大事だと思っています。

経験上、情報リテラシーの向上には多くの時間機械に触ることが大事だと思っています。色んな制限や心配ごとはあるかと思いますが、子ども達が自由に使えるための時間を多くするための工夫を大変ですが、先生そして家族にしてもらいたいと思っています。子ども達が自ら積極的に触ることが日常となることが最終目的だと思います。

しかし、ネット依存は良くないと思います。YouTubeは勧めません。ネットサーフィン論外だと思います。最終的に自分が作るものと認識しながら触れて欲しいと思います。コンピュータやタブレットに触れる上では、制限は最小限としてもらいたいと思っています。してはいけないことを子どもと保護者に示すことは必要だと思います。それでも一部は守らない、守れないということがあるかと思っています。

20年前くらいにインターネットが繋がっているもの同士がファイルを共有できるソフトがありました。そのソフトにウイルスを感染させ、情報を流出させる問題が発生していました。職員のパソコンから情報が流出しているから連絡して対応するようにと指示がでてました。後日情報部の担当者が数名きて、事情聴取されました。それ以降情報モラルに関しては敏感になりました。該当職員は懲戒処分になりました。大人の世界はこ

ういうもので、それなりの処罰がされます。学校において、コンピュータ利用する上では、ルールを守らなかったで終わるが、モラル違反者については氏名を公表し違反内容を共有させることが必要になるかと思います。自分の行動に責任を持ってもらうためには必要だと思います。

私からは、子ども達の情報能力を高めるためには、制限は最小限にしてもらい、子ども達が自由にコンピュータに触れる時間の工夫をしてもらいたいこと、子ども達に情報モラルを植えつけるために子ども達に再三注意をし、違反内容を共有させることが必要だと思います。以上です。

市長

---

ありがとうございました。それでは渡邊委員お願いします。

渡邊委員

---

日頃よりご尽力いただきありがとうございます。

このテーマをいただき、真っ先に考えたのが小中学校で指導していただいている『早寝早起き朝ごはん』のことです。

資料1にある端末の利用環境の現状と検討事項については、大いに賛成しています。不利益な使い方の判断力を育むことや、トラブルを経験することで情報モラル育成に繋がること等ありますが、育む前に依存傾向に陥ってしまわないか心配しています。やはり制限は必要だと思います。必要な理由としては、先程申し上げた通り『早寝早起き朝ごはん』です。

まず、早寝については2016年ごろからスマホが一般的になり始めましたが、睡眠障害の若い患者がとて増えたと言われていています。睡眠障害の問題は、インターネットに触れてる時間が問題ではないかと言われていています。『スマホ脳』という本で書かれていたんですが、毎晩9時間から11時間眠っている子の、9歳から11歳にテストした結果記憶力、集中力、言語能力が一番高く、その一方で睡眠時間が短いと心身の成長に支障をきたし、鬱傾向が高まるリスクが増えることが書かれていました。

2002年でもゲーム脳がその当時問題になりました。その中で問題だったのが、睡眠障害と依存でした。これからの時代、ICT教育は必要不可欠なものです。学校現場で使用され貸与してもらえることは大切なことですし、必要不可欠です。その反面、子ども達の未来を守るために必要なことは、心を守ること、睡眠時間を確保することが必要なことだと思います。

学校現場では、ICT機器の使い方全てにおいて丁寧な指導をされてるかと思います。家庭によっては、指導を守って寝る1時間前にはスマホを見ないようにうながされて

と思います。家庭でのインターネットの使い方がある場合は、家庭で用意したものを使用し、学校貸与のものについては責任の取れる範囲で使用して欲しいと思います。

睡眠障害については、学校、家庭だけの問題ではなく社会全体の問題だと思います。啓蒙していただきたいと思います。『子育て世代日本一』は、幸せを守ることが目的であるならば、心を守る、未来を守る方向で考えていただけたらと思います。

先日、新聞に電子と紙の本の読解力の違いが載っていきまして、紙の方が電子より読解力が高まるとありました。

本には、脳の写真があり、脳が活発に動くことについて記載されていました。一番活発だったのは、自然に触れている時でした。御殿場市は豊かな自然があるため、自然と関わることは木育の大きなテーマの一つです。自然と関わる遊び方を教える人がいないので、増やせないかと思いました。

学校家庭地域の3つの輪が昔は同じくらいの大きさでしたが、今は学校の輪が大きく3つの輪の接点は少ないのかもしれないと考えた時に、地域との接点がもう少し増えると子育て支援日本一に繋がると思います。経験が、前頭葉を鍛えることにも繋がるので、人間性や授業に生産性が生まれるといいと思いました。よろしくお願いします。

市長

---

ありがとうございます。杉山委員お願いします。

杉山委員

---

改めまして、よろしくお願いします。一人一台タブレット端末が導入され、一年が経過いたしました。先生方が多忙な毎日の中端末活用の方法について研究し、情報収集してくださっていること日々有り難く思っております。

私には、現在小学2年生の子どもがおりますので、実際に見ていて感じたことを混じえてお話させていただこうと思います。

昨年度小学校に上がったと同時にタブレット端末一人一台導入ということで、1年生の時から学校、家庭で使用しております。今年度はまだ家庭で使用している様子は見えませんが、昨年度は持ち帰ることが多くて、使用している様子を家庭で見ることができました。

初めは、1年生の子がどう使うのかを見ておりました。子どもにとっては、新しい面白いものとして低学年なりに使いこなしているように見え、私の方が質問することがあります。低学年のため、先生に言われたこと以外で使うことはないようですが、家庭のタブレットを使いYouTubeを見たり知らないことを調べたりは、幼い頃からルールを守って使用しています。先程、勝又委員、長田委員からもありましたが、資料

にも安心安全の端末活用ということで、情報モラル教育の実装の充実を図ることとあります。幼い時からインターネットに触れる機会が多い今の子ども達ですが、ネット上にある様々な情報を整理して、正しい事を判断するのは、大人にすら難しく、子どもだと尚更検索した情報をすぐ信じてしまうことは多々あることかと思えます。フィルタリングを使うことはもちろん大事ですが、それと同時に適切なネット利用方法を啓発すること、意識を養うことも同じくらい大事なことで、学校だけでなく保護者にとっても重要なことだと思えます。

学校だよりを拝見しますと、「情報安全教室、ネット安全安心講座を行いました。」という報告を目にします。このような講座や研修を親子で聞くことや、地域と子ども達で聞くと言った形のものもあると、どんなふうに聞き、理解したのかを家庭においても感じ取ることができて、いいのかなと思えました。

この先 ICT を活用していく上で、子ども達だけでなく保護者側の見つめる目を養わなければいけないと思えます。ただ、子ども達に与え活用するものではなく、大人側もメディア使用について考え、家庭としてどう考え ICT を活用した教育とどう付き合っていくのかを同時に考えなければと思えます。

市長

---

皆さんの意見を聞きまして、これからの社会において ICT の活用はもちろん必要だということ、やはり問題点もあり難しいところです。学校であったり、家庭であったりすることに地域が関わることは話を聞いて難しい印象です。具体的に制限の掛け方や課題が出されましたが、危険性についての現状を教えてください。

教育監学校教育課長

---

子ども達に貸与してるタブレット端末には、検索する際にも制限がかけられておりますので、有害な情報に触れることは多くないと思えます。あくまでも学習ツールですので、子ども達で繋がることは授業以外ではできない規制もかかっております。

授業の中では、適切に子ども達が調べたり、考えを共有したりするツールとして使われているので、安全性は高いと思えます。

昨年度、兄弟のタブレットにログインし、友達になりすましたことがありました。ただ、なりすましても誰がログインしたか分かるので指導しました。それ以降なりすます事例がなくなり、健全な使い方ができている印象を受けています。

市長

---

ある程度の制限をかけているということですが、先に教育長にご意見いただきたいです。

教育長

制限について話題になっていますが、今各学校使っているなかで制限をかけた状態で困っている声などは多くないと思います。文科省としてはできるだけ制限をなくしていかうと動いていますが、ネット関係等で問題が発生しておりますので、委員の皆様からも話があったように、ある程度の制限の元学習を進めていく形が良いのかなと思います。また、現場で声が上がることがあれば随時対応していく形でよいのかなと思います。

市長

ありがとうございました。先程勝又委員からもありましたが、いじめや誹謗中傷の危険性に結びつく可能性はあるのでしょうか。

教育監学校教育課長

今貸与しているタブレット端末では、そこまでの危険性はないかと思いますが、それぞれ子ども達が家庭でスマホなり色々な端末機を持っていますので、SNSを使用してトラブルが起きることはありました。教室での関係性に影響が出るので、担任と保護者が連携しながら指導しております。

市長

ありがとうございました。先程みなさんの意見を聞いて制限についての国の基準の中で各自治体の基準を決める話が出るがありますが、難しいのかなと思います。

渡邊委員のお話の中に子どもの心の問題、睡眠障害や依存等の健康上の問題もありましたが、タブレットを入れる際に議会等でも質問がありました。一番安全な機械を入れました。タブレットの長時間使用は睡眠不足の原因など健康面を考えると、大きな問題だと思います。学校が指導して保護者や地域からも指導をとということになるのでしょうか、これに対して市がまず発信することで大きな力になるのかなと思います。考えていかなければならないことだと思います。

杉山委員から出ました家庭での保護者が見つめる守っていく姿勢や指導については、家庭によってだと思います。理想でいえば家では親が指導するのがよいと思いますが、難しいところなのかなと思います。

長田委員は経験からのお話でしたが、喜びや達成感は子ども達にも言えることだと思いますので大事にしていきたいと思います。教育として教えていくことは大事なことです。問題が起きた時に共有することも大事だと思いました。

自由に使うことが能力を伸ばすと思います。今御殿場市が行っている観光戦略や経済戦略についてはすべてそうですが、デジタル田園都市といい先行モデル地域に恐ら

く指定してもらえと思いますが、SNSを使うような戦略をしています。その方法がある程度成功しています。アクセス数が増える基になり経済効果につながっています。これからの力にもなりますので、子ども達が大きくなると成長したときに、その後仕事で能力を発揮しますので、そのために経験させることは大事なことだと思います。

大人の社会でも危険なことがありますので、子どもに教えるのは重要だと思います。市としてもリスクに対し、しっかり行いたいと思います。

勝又委員

---

パソコンの16ビットが出まして、日本の漢字が表示できるようになった昭和59年ぐらいから黎明期がありまして、三種の神器ワープロ、表計算、データベースが使いこなせばパソコンを使いこなせるという風に言われていました。ネットワークという言葉はなく、電話回線を使い通信ができていました。電話代がすごくかかっていました。

その後、アメリカで開発されインターネットが始まりました。日本でも平成6、7年になりインターネットという名前で普及し始めました。今は表計算、プレゼンテーション、インターネットが三種の神器と言われています。プレゼンテーションでパソコンが使われるようになったということです。パソコンの使いやすい部分だと思います。ワープロは、表計算でワープロ代わりにする事が多くなかったようです。

インターネットについてはアプリケーションではなく、あくまでも通信の環境がインターネットになってるということです。インターネットで何ができるのかというとホームページや検索ができる、SNSを使うことも1つの使い方です。

仕事でもインターネット環境を崩せない状況になってきてますので、本来であればインターネット環境を体験させることは非常に重要なことだと思います。

トラブルを経験させることにより、教育モラルの育成につながることは怖い言葉です。経験させなければ情報モラルの育成にならないのか、トラブルありきでいることが怖いと思いました。保護者目線、教育委員会の立場からすると、危険な目に合わせたくないと思っています。

タブレットを貸与するのであれば文房具として限定して、どこの家庭でもインターネットができる環境にあると思うので、いくら市で貸与しているものを制限してもトラブルはなくなると思います。危険性について伝えることは、重要で怖さを体験させるような状態のまま貸与するのは問題なのかなと感じています。

市長

---

ありがとうございます。私も怖さを教えることは重要だと思いますので、検討していただければと思います。市としましてもしっかりしていきたいと思います。長田委員

からもありましたが、いろいろな能力を教えるのが大事という話がありましたが、市でドローンの最新技術の催し物を行います。

今、災害や教育でドローンが注目されています。子ども達がプログラムを作って体験をさせることで能力を高められます。学校では教育のための ICT のため、すべてを教えられるわけではないので市で補えたらと思います。

家庭の中での教育は難しいかと思うんですがどうでしょうか。

杉山委員

---

低学年なので、言えば聞いてくれることはあるのですが、年齢が上がると親が言うことよりも学校でいわれたこと、講演会でいわれたことの方が耳に入りやすくなっていくのかなというところもあると思います。ある程度は低学年の頃から指導しますが、加えて指導していただきたいところがあります。

市長

---

親子ですので、甘えている部分もあり、いうことを聞かないこともあり難しいと思います。様々な立場から教育していかなければならないのかなと思っております。

健康上で問題になっていることはありますか。

教育監学校教育課長

---

貸与しているタブレットではないですが、差はありますがゲームを長時間やるとかラインで長時間連絡しているお子さんも中にはいると思います。

市長

---

ありがとうございます。他にありましたら教えていただければと思います。

杉山委員

---

資料の中で制限がないと書かれていますが、他の市では 21 時以降は使えないように制限していると読んだことがあり、睡眠障害を防ぐことにもつながるのかなと思うんですが、市として制限はないままで行くつもりなのかお聞きしたいです。

市長

---

私自身も夜遅くまで使うのはよくないと感じています。

教育監学校教育課長

---

基本的には、授業で使うツールと考えていただければと思います。ロイロノートが導入され、授業も変わりました。リアルタイムで回答を共有できたりします。夜長いこと使うのはよくありませんが、昼間の授業で活躍しております。

文房具だという話がありましたが、様々な用途で使い個別で探求することも必要ですし、特別支援級では、音声ガイドしてくれる機能なんかも追加されますので充実しております。

市長

---

ありがとうございました。コロナの中で制限された環境で不登校の生徒や登校できない生徒とタブレットを活用することはありますか。

教育監学校教育課長

---

ロイロノートを活用し、写真や明日の予定表を瞬時に送ったり、送ってくれたりやり取りがあります。

市長

---

ありがとうございました。なかなか顔を合わせられない子どももいるのかなと思いますので大事なかなと思います。時間制限についてはどうですか。

教育監学校教育課長

---

家庭での約束が非常に大事なのかなと思います。学校でも教室を開くなどしながら、触れ合う時間については家庭で行わないと難しいところがありますので、啓蒙等働きかけをしたいと思います。

市長

---

ありがとうございました。使い方を覚えていくのも成長につながるのではないかと  
いうことと危険性も教えていく学校、家庭それぞれで行っていただきたいと思います。  
市でもアピールはさせていただきますのでよろしく申し上げます。

## 5 閉会

---

教育総務課長

---

ありがとうございました。

教育委員の皆様も、今後の参考となる貴重な意見をありがとうございました。

今回の総合教育会議を踏まえた上で、今後のタブレットの活用や制限について検討していきたいと思えます。

本日の協議につきましては以上となります。

市長、教育長、そして教育委員の皆様、本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして総合教育会議を終了させていただきます。

午後3時30分閉会